



①参加者と共に作った「一本松」モザイクアート



②祈りと記憶の灯「竹キャンドル」アート



③東北復興支援「BGU Wine」試飲会



④追悼イベント「キャンドルナイト」の準備完了!



⑤本校合唱部の澄みわたる歌声

加した学生たちの思いが合致して、2012年に東日本被災地復興支援準備委員会を大学内に発足。笹岡学科長を教職員委員長、三浦昌志さん（コミュニケーション社会科学科・今春卒業）を学生委員長として1年間の準備期間を経て、昨年4月から小澤摩祐さん（外国語学部3年）を学生委員長、西山沙織さん（同）、村山みな美さん（心理学科3年）を副委員長として、同委員会の活動をスタート。

委員会の他のメンバーは、3月11日にココネ広場で行われた「つなげよう復興へ希望の光」イベントに参加。「まごころ就労センター」のブースを設けて、障害を持つ方々が作った製品を代行販売しました。

今後は、櫻井彩乃さん（心理学科2年）が新委員長、堀田洋美さん（児童発達学科2年）が副委員長を引き継ぎます。「個々の思いを繋げていくのは、現地に行かなければできないことではなく、まずは本郷とふじみ野のメンバーが協力し合って、被災地の現状を多くの方々に伝えていきたい」と抱負を語る二人に、村山さんが「被災地の皆さんの笑顔を見られるような活動を」とエールを送りました。

シの木「故郷」。この年代にしか出せない透き通った歌声が、会場いっぱいに響き渡りました。

同コンサートへの出演は、主催の認定NPO法人おんがくの共同作業場代表・郡司博先生と、本校の南部和彦中学代表との出合いがきっかけ。昨年も郡司先生からのお誘いで合唱部が出演し、原発事故で学校に戻れない子どもたちのために熊町小学校、大野小学校、大熊中学校の校歌を歌いました。

南部中学代表は、「復興への道のりは長く、支援活動はこれから続きます。歌声を通して、文京学院からの力強いエールを被災地の皆様に届けられると幸いです」と感慨深気に話しました。



に色々な事を経験して、
 ですが、文京で培った強い
 精神で乗り越えて下さい。
 皆さんにとってこれからの
 人生がばら色でありますよ
 うに心から祈っています。

後期の期末試験も終わり、富士賞の授与式、テフルマナー・卒業を祝う会など、一つ一つの行事が淡々と執り行われていくことに3年間の重みや寂しさを感じずにはいられませんでした。皆さんと共に過ごした3年間はとても思い出深く充実した時間でした。

皆さんにとっての高校生活は、これから訪れるであろう社会の荒波を乗り越えるための基礎作りだったように思います。長い人生に

Green Spirits

高等部3年学年代表 面高信一郎

校庭の桜が満開になりました。皆さんと出会って7回目の春を迎えようとしています。

「人生は、決してやり直すこと

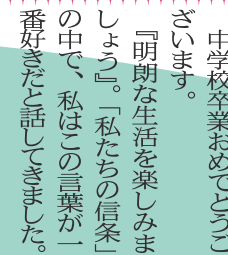
講話で贈った言葉です。夜でいちばん暗いのは夜が明ける直前の時だと、天文学者が言っていたのを聞いたことがあります。失敗を恐れず、新しい旅の一步を踏み出して下さい。6年間素敵な時間をありがとつ。

中・高 卒業生に 贈る言葉



できない。でも、直すことは今からもできる。どんな長い夜も決して明けない夜はない」

一貫部教頭・高3学年代表 **水上茂**



贈ります。「前へ!」。振り向かずとも、仲間は必ずそばにいてくれます。仲間と自分を信じて前進あるのみです。悔いのない高校生活を送ってください。



「明良の生涯」は、自分の
限界に挑戦して、あきらめ
ず、誠実に努力をし続ける
ことでしか手に入りません。
明治大学ラグビー部の名物
監督として知られていた北
島忠宏監督の有名な言葉

中学3年学年代表 **三戸佳澄**

3・11を文京学院は忘れない！

2011年3月11日、東日本を襲った未曾有の大震災により、約1万6000名の尊い命が奪われてから4年――被災地では今もなお、約2600名の行方がわからず、約22万もの人が避難生活を余儀なくされています。

**つなげよう復興へ希望の光
3・11を忘れない**

3月11日、東武東上線・上福岡駅のココネ広場で同イベント（タイトル参照）が行われました。主催は同実行委員会、本学の環境教育研究センター所属の学生が構成メンバーとして企画・運営に携わっています。

はじめに、本学の高木紀幸同学生実行委員長（コミュニケーション）が挨拶し、震災発生時刻の14時46分に一同、黙とう。その後、地元の花屋さんの協力で石巻から取り寄せたガーベラを献花。夫婦デュオ「ペーパームーン」のライブも行われました。

同イベントのプログラムは主に3つ。まずは、岩手県陸前高田市の復興の象徴である「奇跡の一本松」の和紙マザイクアート（写真①）。学生と市民団体が被災地で撮影した300枚の写真を和紙にプリントして並べ、一本松に見立て、参加者にメッセージを書いてもらった花びら型の和紙を貼り、「3・11を忘れない」の文字を表現。完成したマザイクアートは、縦180cm、横300cmの大作となりました。

2つ目は竹キャンドルアート（写真②）。150本の竹キャンドルを縦150cm、横300cm、高さ90cmに並べて「3・11の文」の字を描きました。復興への祈りと震災の記憶の灯を前に、一同黙とうを捧げました。

3つ目は復興支援ワイン（写真③）。人間学部の中山智晴ゼミナールはじめ、コミュニケーション社会科学科

の学生たちが、風評被害や後継者不足に悩む福島県郡山市の「菅野ぶどう園」で、昨年2月よりぶどう作りの手伝いを継続。そこで収穫されたぶどうを使って、本学の名前を冠した東北復興支援ワイン「BGU Wine」を、この2月に完成させました。ラベルは経営学部が学生が作成。当日は、同ワインの試飲会が行われました。プロセスを記録したブログのQRコードを印刷したワインタグも会場に配布しました。

会場では、同じく風評被害に悩む郡山市逢瀬町の野菜を販売する他、焼き牡蠣・ホタテなど被災地の特産品・名産品などを販売するブースが設けられ、約400名の参加者で賑わいま

にわたるイベントを終了しました。

環境教育研究センターに所属し、当日運営スタッフとして活躍した富永恵莉さんは来場者参加型にしたため「皆で創り上げたイベント」という実感がありませんでした。あらゆる場面で、地域の方々のご協力がありました。モザイクアートに使用した和紙は、私たちが染めた紙で、全て手でちぎった力作です」。

被災地を思う深い心が、学生たちの活動の原動力となっていました。

東日本被災地復興支援委員会

東日本大震災発生後、心のケアを続ける人間学部の人々

村山さんによると、委員会には現在約30名が所属。この3月9日から12日まで、一般学生を対象に、まず岩手県と宮城県の良さを知ってもらうツアーを企画。1日目は三陸鉄道1輛を借り切って、三陸のお弁当を食べながら景色を楽しんだ後、バスで市内観光。現地ものを食べ、現地に泊り、消費購買行動をすることもまた復興支援に繋がることが体感してもらいました。

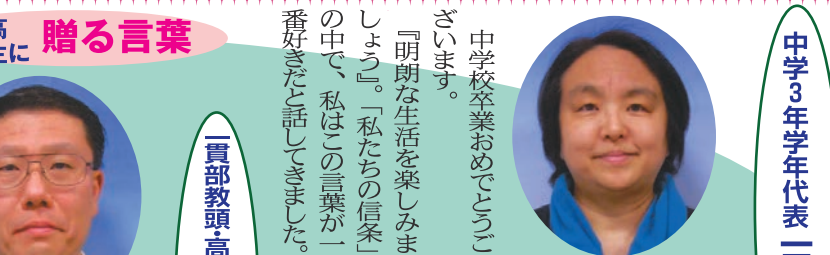
2日目は、委員会としての活動を知ってもらうために、お世話になっているNPO団体「遠野まごころネット」を訪ね、追悼イベントの準備(写真④)。3日目の3月11日には、追悼イベントとしてキャンドルナイトを実施。最終日は、

オーケストラとうたう
日本の合唱曲 Vol.2
♪音楽復興支援♪

3月26日、東京芸術劇場コンサートホールにて同イベント（タイトル参照）が行われ、中高の合唱部も出演しました（写真⑤）。

指揮は、本校合唱部顧問の稲垣絢子先生。武蔵野音楽大学大学院修了後に渡仏し、パリ・エコールノルマル音楽院在学中に、パリ・NESSCO本部開催東日本大震災チャリティーコンサートに出演。国内外のコンクール入賞歴を持つ声楽家です。ピアノ伴奏は、この春中学を卒業した田中美帆さん。卒業式での式歌伴奏も担当しました。

合唱部が歌い上げたの



「明朗な生活」は、自分の限界に挑戦して、あきらめず、誠実に努力をし続けることでしか手に入りません。明治大学ラグビー部の名物監督として知られていた北島忠治監督の有名な言葉を贈ります。「前へ」。振る向かずとも、仲間はずすずばにいてくれます。仲間と自分を信じて前進あるのみです。悔いのない高校生活を送ってください。

学年代表 **水上茂**

はできない。でもい出直すことは今からでもできる。どんなに長い夜も決して明けない夜はない。

特集 3 キャンパスそれぞれの卒業式

春のうららかな陽射しを浴びながら、幼稚園・修・証書授与式、中学・高校の卒業証書授与式、大学・大学院の卒業証書・学位授与式、生涯力レジの修了式が順次行われました。平成 26 年度は、1709 名が新たな舞台への一歩を踏み出しました。

3月21日「中学校」

3 学年担任を先頭に、卒業証書授与の司会にあり、国歌・校歌斉唱。ピアノ伴奏は山本美月さん。



岩崎さん 小室さん 池永さん 松本さん 宮崎さん 竹中さん 吉崎さん 佐藤さん 池永さん 牧野会長 石井さん 横山さん

3月7日「高校」

卒業生の 308 名が吹奏楽部の演奏に合わせて本郷キャンパス・メテオに入場すると、会場から大きな拍手が起きました。式典に先立ち、吹奏楽部から卒業生に「ひまわりの約束」の演奏が贈られました。指揮は深町晴樹。

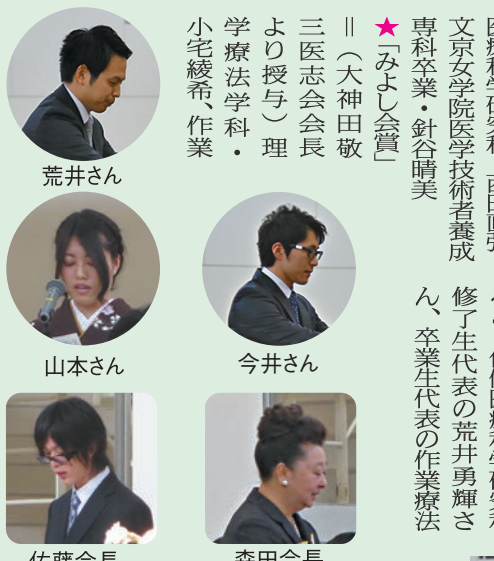


森野さん 水内さん 青木さん 佐藤さん 竹谷さん 安岡さん 岡さん 黒須さん 飯島さん

文京学院より1709名が新たなステージへ!

3月15日「保健医療技術学部／保健医療科学研究科」

田中真由美マネジャーの司会により、島田和幸記念アトリウムにて開式。川上保子臨床検査学科助教のピアノ伴奏により国歌・校歌斉唱の後、川邊信雄学長が登壇。古谷信孝専攻主任・教授が大学院保健医療科学研究科修士課程を修了した 23 名の氏名を読み上げ、川邊学長が総代の荒井勇輝さんに学位記を授与しました。荒井さんは「学長賞」も贈られました。



荒井さん 山本さん 今井さん 森田会長 佐藤会長 小池さん 宮田さん

3月15日「人間学部／人間学研究科」

田中綾子マネジャーの司会により、アトリウムにて開式。小澤龍雄教授の指揮と吹奏楽部の演奏で国歌・校歌斉唱後、川邊信雄学長が登壇。大学院人間学研究科人間学専攻・心理学専攻・修士課程修了・学位記を授与される名として、研究生 2 名の総代・秋山舞華さんに学位記を授与しました。秋山さんには「学長賞」も贈られました。



石川さん 秋山さん 伏田さん 藤川さん 田村さん 木村さん 小菅さん 島崎さん 鹿島さん 児玉さん 須田会長 原田さん

3月14日「外国語学部／外国語学研究科」

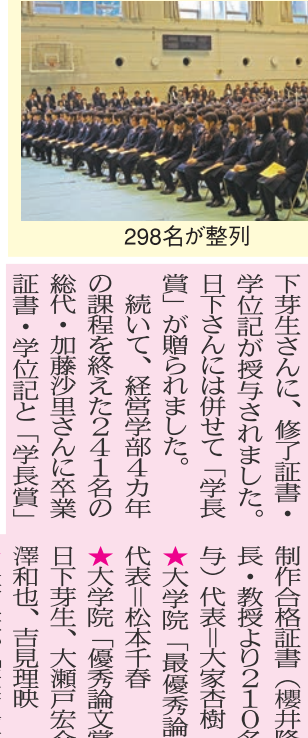
阿佐一朗助教の司会で阿佐ホールにて開式。宮長・教授より授与。代表は東本裕子。



鈴木さん 東本さん 橋田さん 瀬村さん 森山会長 渡邊さん 曾根会長

3月14日「経営学部／経営学研究科」

五十嵐康雄マネジャーの司会で仁愛ホールにて開式。宮長・教授より授与。代表は松本千春。



大家さん 大瀬戸さん 加藤さん 日下さん 塩澤さん 松本さん 吉見さん 和田さん 伊藤会長 岡田さん



大家さん 大瀬戸さん 加藤さん 日下さん 塩澤さん 松本さん 吉見さん 和田さん 伊藤会長 岡田さん

3月21日「文京幼稚園」

園ホール前の扉から修了児 61 名が入場すると、会場から大きな拍手が送られました。自分たちの席までしっかりと歩み寄る姿が、退場まで立派な修了児でした。



大家さん 大瀬戸さん 加藤さん 日下さん 塩澤さん 松本さん 吉見さん 和田さん 伊藤会長 岡田さん

3月10日「文京生涯カレッジ」

大橋早苗議員の司会により、S館フロンティアホールにて開式。島田輝子学長が修了式を主宰し、松本朝晴・渡部フミ子。



大家さん 大瀬戸さん 加藤さん 日下さん 塩澤さん 松本さん 吉見さん 和田さん 伊藤会長 岡田さん

学同窓会会長が祝辞を述べました。続いて、森田喜代子文京学院校友会会長と、佐藤良一後援会副会長が紹介されました。名桜大学の山内勝己学長の祝辞紹介もありました。



大家さん 大瀬戸さん 加藤さん 日下さん 塩澤さん 松本さん 吉見さん 和田さん 伊藤会長 岡田さん

啓輔さんが祝辞を述べました。文京学院校友会の森田喜代子会長、文京学院大学後援会の高橋秀彰副会長の紹介もありました。



大家さん 大瀬戸さん 加藤さん 日下さん 塩澤さん 松本さん 吉見さん 和田さん 伊藤会長 岡田さん

修了児と保護者の前で、益田園長が挨拶。

を呼ばれ、「おめでとう」の言葉と共に修了証書を受け取りました。

文京生涯カレッジ第 13 期生修了おめでとうございます

高校SSH(スーパーサイエンスハイスクール)②③

くくばScience Edgeポスター発表

都内女子校で唯一、文部科学省からSSHの指定を受けている本校では、生徒たちが積極的に外部での発表会に参加しています。

3月23・24日、つくば国際会議場において「くくばScience Edge 2015」が開催され、本校の生徒たちも参加。各専門家、他校生徒、一般来場者を前に、これまでの研究についてポスター発表を行いました。

「納豆菌が人体に与える影響」(高3)「カエルの前肢の神経分布の形態解剖」(高2)「みどりになったらつきようを探る」(高1)の緑変との比較によるらつきようの緑化条件・緑色物質の探索」(高1)に参加した生徒は、



「実験はやはり楽しい！」と知的好奇心全開の様子でした。なお、竹村美帆香さん(2梅)と宮下真佑さん(同)が発表した「納豆菌」に関する研究が、常陽新聞に掲載されました。

中学「創作ダンス発表会」華麗に



最優秀賞の情感溢れるダンス

中学3年生による「創作ダンス発表会」が3月5日、仁愛ホールで行われました。保健体育のダンスの授業で1年間、基礎から創作までを学び、クラス内予選を経て出場グループ8組が決定！今年のテーマは「感情」。4分間の中で、1年間の努力の成果を精一杯発揮しました。会場では、仲間を応援する掛け声が飛び交い、最高潮のムードの中、来年・再来年に同発表会に出場する1・2年生が、熱心に先輩のダンスに見入りました。

- ★最優秀賞「ゴースト」闇の館へようこそ(3菊)
- ★優秀賞「真の友情」(3松)
- ★優秀賞「戦争」(3栗)
- ★努力賞「Jealousy」(3桃)

大学臨床心理相談センター

「高齢期のこころの健康」講演会開催



山崎准教授の話に目からうろこ

「高齢期のこころの健康」認知症やうつにならなために「をテーマとした公開講演会が3月6日、本郷キャンパスで開かれ、50人を超える参加者がありました。主催は、臨床心理相談センター(加賀利岳

美センター長・人間学部准教授)。講師は、人間学部心理学科の山崎幸子准教授。

「早期発見・早期発見・早期発見」が大切。予防に効果的な食べ物、野菜・果物・魚の他、それらを食材としたバリエーションの地中海料理が挙げられます。軽度認知症の場合、エピソード記憶(体験したことを覚えていて、後から思い出す)が低下しますが、それを鍛えるためには、数日遅れて日記をつける、レシートを見ないで家計簿をつけるなどの方法があります。高齢者のうつの特徴は、体の不調が強い、イライラしやすい、記憶力の低下などがありますが、「全体的な意欲や活動力の低下」がある場合は、早期発見・早期発見が大切です。うつを予防するには「太陽光を浴びる」「運動をする」「日頃の幸福感を高める」などの方法があります。例として「感謝の言葉」を書く「感謝日記」があります。「親切な言動」もそのひとつですが、それに慣れてしまつと幸福感を感じ続けることはできなくなるため、毎日ひとりひとりに親切にするよりも、週に1回一日だけ5つの親切をするほうが効果的です。これら目からうろこの内容の他、「軽度認知障害チ

大学アニメジャパン2015

学生が産学連携6例を発表

3月21・22日、東京ビッグサイトで「Anime Japan 2015」(アニメジャパン)が開催され、本学の学生も「学生魅力」をテーマにしたブースを出展しました。2日間の来場者は12万人を突破！プレゼンテーションタイムには、ブースから溢れるほどの来場者を前に、産学連携の成果として、学生たちが次の事例を熱く発表しました。

- ★トルコ大使館文化センター・エムレ・インスティテュートトルコ民話の主人公「ナスレディン・ホジャ」を活用したアニメーション(声・大学院経営学研究科・川村順一客員教授やグズズでの新たなビジネス展開を提案。
- ★ナカチカ株式会社「似顔絵ツール「キャラビ」の認知度向上を目的とした新たなB to C(企業が個人向
- ★和風創作居酒屋「いっちょ」神楽坂店メニュー表、壁装飾など学生が制作したコンテンツで、店内を活気づける方法を提案。
- ★禅トレプレナー協会「禅」をより身近に感じてもらうためのオリジナルコンテンツの発表。
- ★代官山 葛屋書店「プレミアエッジ(物の良さがわかる年代)に向けて、新たなライフスタイルプロモーションの提案。
- ★学生実行委員長の本田峻介さん(経営学部2年)は、「来場された方々が『本当に学生!』とこんな提案があつたんだ」と驚かれた様子を見て、とてもうれしく思いました。運営班、デザイン班、MD班、それぞれの動きを見て「すごいな!」の一言に尽きます。私自身が約30名の委員みんなを引っ張っていく責任ある立場ですが、むしろ委員長をさせていたたいいと思ひ、感謝の気持ちでいっぱいです」と充実感溢れる笑顔で話しました。



「みどりのらつきよう」の研究成果を発表する生徒



溢れる来場者の前でプレゼンする学生たち



本田学生実行委員長

大学地域連携フォーラム

BICS 10周年を記念して

「地域連携フォーラム2015」が3月17日、ふじみ野キャンパスで開かれました。創設10周年を記念して、今年のテーマは「飛躍」開け10年のトビラ。シンポジウムでは、地域委員代表・市来久美子さん、きりぎり保護者代表・鹿沼さつきさん、ふじみ野市役所高齢福祉課・杉尾優花さん、地域連携センターBICS・梶原隆之センター長(人間学部准教授)が、「10年間の中で印象的な出来事、エピソード」を中心に、これまでの活動を振り返りました。司会は、学生実行委員長の三川愛さん(人間福祉学科3年)と副委員長小川りえこ(同3年)、野川志帆(同2年)が担当しました。三川委員長は「私たち実行委員にとつて、限られた大学生活の中で『地域連携センターBICS』に携わることが一生を通しての誇りです」と話しました。今後、藤田直人さんが新委員長、野川志帆さんが新副委員長として、この活動を繋げていきます。

- クロバー(対象・高齢者、学生26名) 海野澤香(同3年)、岡本朱加(同2年) ●ピーターパン(対象・障害児、学生55名) 小倉沙耶(同3年)、西辻愛理(作業療法学科2年) ●ビスケット(対象・障害児、学生73名) 藤田久枝(人間福祉学科3年)、小野萌子(同2年) ●エンタメパワー研究



シンポジストの杉尾さん、鹿沼さん、市来さん、梶原センター長(左から)

【訂正とお詫】706号1面「富士賞」総合部門の金富万季さんは「金富万季」さん、中学バレーボール部の橋本麻椰さんは「橋本麻椰」さん、硬式テニス部の丸山凛さんは「丸山凛」さんです。訂正してお詫いたします。



シンポジウムをスムーズに運んだ三川委員長(左)と福島副委員長



閉会式で挨拶する藤田新委員長